

58. 古の歴史を纏う香り

医事万華鏡

春の訪れと共に

祝いするイベントに「復

活祭(イースター)」があります。

イースターは十字架に架けられて

亡くなったイエス・キリストが3日

後に復活したことを祝う日で、キリスト教

徒にとってはクリスマスと並んで大切な行事の一つ

です。一方で、イエス・キリストの復活を祝うイースターは、

古代ゲルマン神話の春の女神の名前「Eostre (エオストレ)」

に由来するとも言われています。春を象徴する女神のイマー

ジがイエスの復活と重なることで、イースターは遍く世界

の「春の訪れ」を祝う意味も含意しているからだとそうです。

そんなイースターに登場する重要なモチーフといえば

「卵」です。新しい命の誕生のシンボルでもある卵は、生命

や復活の象徴とされ、このことが処刑された後に復活したイ

エス・キリストを連想させるからだとされています。ま

たイースターと言えば、卵と並んで「うさぎ」が重要なモチー

フとなっています。これは多産なうさぎは「子孫繁栄」の

象徴であることに由来します。イースターのうさぎは「イー

スターバニー」と呼ばれ、イースターバニーたち
がイースターエッグやお菓子を運んできてく
れるという言い伝えもあります。

ところで、イエス・キリストの誕生を祝う捧

げものとして、聖書の中でミルラ(没薬)と共

に登場するのが「フランキンセンス(乳香)」です。フラン

キンスは乳香の木から採取される樹脂で、香料の中で最も古

い歴史を持つと言われています。宗教儀式や礼拝では、フラ

ンキンセンスの煙が神と人々の「仲立ち」となり、場を浄化

する神聖な香りとして香炉で焚かれ、現在でもその伝統は続

いています。また、古代エジプトではミイラの防腐剤として

使用され、古代ギリシャやローマの医療でも、傷の治癒や感

染症の予防に効果があるとされ、重宝されてきました。

そんな植物の香りは今や人間の心身に大きな効能を有して

いることが知られています。例えば香りは脳に直接作用する

ことで気分や安定や高揚を促すと共に、自律神経や内分泌系、

免疫機能にも影響を及ぼすことが分かっています。また、認

知症の中核症状である認知機能が改善したり、香りのリラッ

クス作用により行動・心理症状である不安や興奮、睡眠障害

の改善がみられたという研究結果も報告されています。

春は気持ちが華やき、多幸感に包まれます。そんな多幸感

だけでなく、「瞑想」にもおすすめの香り・フランキンセンス。

イエス・キリストの復活をお祝いするムード溢れるこの季節、

ぜひフランキンセンスの香りを纏いつつ、悠久の歴史に思い

を馳せてみてはいかがでしょうか。(JMS主幹・野村元久)

